

JAPIC NEWS

contents

■ 巻頭言

令和の医薬品安全対策にエールを送る

一般社団法人 くすりの適正使用協議会 理事長 俵木 登美子 2

■ インフォメーション

2019年度 JAPICユーザ会(東京、大阪)について 4

「理事会」「評議員会」の概要報告

■ コラム

くすりの散歩道No.130「病気にならない生き方」

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当 木南 純二 5

■ トピックス

平成31年度事業計画について 6

JAPICサービスの紹介

「医薬品・医療機器等の適正使用に役立つ

品質・有効性・安全性に関する情報提供サービス」 8

■ 外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報よりー(抜粋) 10

■ 図書館だより No.347 11

■ 情報提供一覧 11

5

May
2019

No.421

JAPIC
Japan Pharmaceutical Information Center

一般財団法人 日本医薬情報センター

巻頭言

kantohgen

令和の医薬品安全対策に エールを送る



一般社団法人 くすりの適正使用協議会 理事長

俵木 登美子

Tawaragi Tomiko

2019年5月、新しい令和の時代が始まります。くすりの適正使用協議会はこの令和の始まりの時に創立30周年を迎えます。新しい時代にまた新しい歩みを始めたいと思っています。

さて、新しい時代の始まりに当たり、昭和、平成の時代の医薬品安全対策の流れを改めて辿ってみたいと思います。

日本の医薬品安全対策は、昭和の後半から平成の時代に大きく変化しました。サリドマイドによる胎児奇形、キノホルムによるスモン、クロロキンによる網膜症、血液製剤によるエイズ・C型肝炎、乾燥硬膜によるクロイツフェルト・ヤコブ病など1960年代から1990年代にかけて、いくつもの薬害事件を経験し、それらを教訓として、薬事法（当時）の改正を繰り返し、安全対策の強化が図られてきました。

1965年、サリドマイド禍を憂慮したWHOが加盟各国に国内の副作用モニタリング体制を整備するよう勧告し、世界中で医薬品の安全対策が動き出しました。日本でも1967年にモニター病院を指定して副作用報告の協力を求める副作用モニター制度が開始され、また、新薬製造企業に副作用報告を求める制度が始まりました。その後のキノホルム事件を受けて1979年に薬事法（当時）の大改正が行われ、再審査・再評価制度、企業報告制度が法制化されました。1993年に起こった、市販直後に死亡例を多数出すこととなったソリブジン事件も医薬品安全対策に大きな警鐘を鳴らすものでした。新薬発売後一定期間の安全対策の重要性が強く認識され、2000年に市販直後調査制度が導入されました。また、血液製剤や乾燥硬膜によるウイルスやプリオンの感染問題を受けて、1996年及び2002年の薬事法（当時）改正により、感染症報告、感染症定期報告が法制化され、感染症に対する体制も強化されました。1997年には副作用モニター制度が全医療機関に拡大され、医薬品・医療機器等安全性情報報告制度になりました。

製薬企業の社内体制の整備についても規制の強化が順次行われてきました。2002年の法改正時にはGVP（製造販売後安全管理基準）・GPSP（製造販売後調査等実施基準）が制定され、製薬企業の市販後安全対策の体制整備を大きく進めることとなりました。さらに、2012年にRMP（医薬品リスク管理計画）が導入され、製薬企業においては、開発部門から市販後部門までの一貫した安全対策の体制整備が求められることとなりました。

昭和、平成の時代は、このように安全対策に関わる制度の強化・整備が次々に図られてきた時代でした。その間の副作用報告件数の推移を図1に示します。この間の疾病構造や新薬開発領域の変化、新薬開発のスピード、切れ味のいい新薬の登場などを考えると副作用報告数の増加を単純な要因によって説明することは難しいですが、制度の強化・整備が副作用報告

2019年度 JAPICユーザ会 (東京、大阪) について

2019年度の「JAPICユーザ会」を下記の日程で開催いたします。

■日時・会場

東京：2019年6月17日（月）13：30～16：50 （受付開始 13：00～）
日本薬学会長井記念ホール（東京都渋谷区渋谷2-12-15 長井記念館 地下2階）

大阪：2019年6月19日（水）13：30～16：50 （受付開始 13：00～）
ブリーゼプラザ（大阪府大阪市北区梅田2-4-9 ブリーゼタワー8階）

■プログラム

- 13：00～ 受付開始
13：30～13：35 主催者挨拶
13：35～15：30 2019年度事業案内
①JAPIC事業概要説明 ②JAPIC-Q、JAPIC-QX、JAPIC-Q医療機器情報、JAPIC-Q Plus
③外部データベースを利用した文献検索サービス
④JAPIC Daily Mail、JAPIC Daily Mail Extra、JAPIC Daily Mail Plus
⑤JAPIC AERS ⑥添付文書関連データ ⑦書籍・CD-ROM
15：30～15：50 休憩 コーヒータイム
15：50～16：50 特別講演 「薬機法改正の動向」
前国立医薬品食品衛生研究所 企画調整主幹 赤川 治郎 先生
17：00～18：30 懇親会

※2019年度事業案内では、JAPICの主要サービスにつきまして、ご説明いたします。

■参加費：無料

■申込方法：JAPICホームページ 講演会・ユーザ会 入力フォームからお申込みください。

■問合せ：事務局 業務・渉外担当（TEL：0120-181-276）

「理事会」「評議員会」の概要報告

3月7日（木）に平成30年度第4回理事会、18日（月）に平成30年度第2回評議員会を開催いたしました。

今回の主な議題でありました平成31年度事業計画・収支予算について、理事会及び評議員会において審議を行い、承認・議決されました（議題と主な内容は以下のとおり）。会員の皆様には、事業計画書を先般ご送付いたしました。

○「平成30年度第4回（通算第145回）理事会」 3月7日（木）16：00～16：50、当センター4階会議室

《議題》

1. 平成31年度事業計画（案）について
2. 平成31年度収支予算（案）について
3. 報告事項
 - (1) 維持会員の異動について
 - (2) 代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告について

○「平成30年度第2回（通算第45回）評議員会」 3月18日（月）16：00～16：55、当センター4階会議室

《議題》

1. 報告事項
 - (1) 平成31年度事業計画について
 - (2) 平成31年度収支予算について

くすりの散歩道

no.130

病気にならない生き方

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当

木南 純二 *Kinami Junji*

『Ca、Mg欠乏によるトマトの植物栄養学的研究』は私の卒論テーマであった。研究室から農場のガラス室まで水耕栽培液調製用の大量の蒸留水をリアカーで何往復かするのが当時の日課で、知力より体力勝負のテーマ。就職難の年に大学を卒業。「食」に携わる仕事を目指す自分を受け入れてくれる企業は乏しく、卒業が差し迫る12月に何気なく受けた「薬」の研究職に幸か不幸か合格してしまう。「薬」には正直あまり興味がなく、「食」に関わる職に未練をもちつつ、デスクワークは不向きな性格、自宅から近いとの安易な理由で入社を決意。人生は奇なりである。「薬」を生業とし今春に44年目を迎えた。

近年の医薬に纏わる飛躍的な科学的進歩のおかげで、がんは早期発見で寛解し、ヒトは100歳まで生存できる、当時では考えられない時代が到来しつつある。テレビでは国民の健康志向を反映し、病気に纏わるテーマを取り上げた番組の人気は高く、「薬」よりも疾患を未然に防ぐ日常の「食」、「運動」による生活改善に目が向けられている。

我が身を振り返ると、長年のサラリーマン生活で身に着いた暴飲暴食、仕事によるストレス、中年期に2回の会社合併、転職による長距離通勤、遅い夕食タイムの罪過で右肩上がりの体重増加、メタボリック症候群。薬を生業とする者としては恥ずべき所業。どうにかしたいと考えていた私の生活改善の転機は、転職3年後の長野・安曇野の単身赴任生活であった。30年余りの悪行?を改心し、気分一新、50代で人生初の単身生活にささやかな期待を抱き、辿り着いたのは真冬の大糸線の無人駅。まるで銀幕の一シーン。しかし、最低気温-10℃が何と4日間続く極寒の洗礼を受け、風呂の水は度々凍り、帰省時には不凍栓がなく水道管破裂を経験した。

健康改善のスタートラインに手にしたものは、当時人気の新谷弘実著の「病気にならない生き方」という1冊の本。多くの患者の胃腸を内視鏡検査した著者の診察経歴から、胃相・腸相の重要性を指摘し、必要な自己酵素を失わず、食事から補う生活習慣を身につけ、胃相・腸相を改善することを説いた名著で、私のバイブルと化した。

本を参考に100%玄米食、野菜中心、飲酒は原則週末のみと決意し、当時はかなりストイックに遵守していた。北アルプス・常念岳の山麓にある研究所で何のストレスもないのんびりとした、誰が見ても健康的な生活パターン。週末は県内の名所を巡り、風景、花の写真三昧、溪流釣り、トレッキング、山菜採り、キノコ狩りを楽しみ、長野のおいしい空気、水、野菜、酒?で心身共に洗われ、夏には前職の多くの仲間が来てくれて、あつという間の夢のような4年間であった。

おかげでメタボリック症候群の症状がいつか消え、運動と日常摂取する「食」を源に心身の健康を維持する「医食同源」を心がける姿勢の大切さを痛感した貴重な経験であった。自身は絶対不可能と思っていたが、人間は病気にかからない生き方をいざとなれば実践できるものである。

ふと思い出すのは、卒論のあの『不健康に育てたトマト』と、それと対照的なつくば科学万博85でみた1株から17000個の実をつけた『巨木トマト』である。同じ水耕栽培のトマトでも微量元素を欠乏させると根腐れや尻腐れ病が発生してしまう。私の生業は「食」でなく「薬」であったが、歩んできた道のりで辿り着いた生き方は、当然ながら「薬」に頼る前の「食」であるようだ。

平成31年度事業計画について

平成31年度事業計画については、3月7日（木）の理事会及び3月18日（月）の臨時評議員会において討議・承認されたので、概要をお知らせします。

平成31年度は第六期中期3カ年計画（平成29～31年度）の最終年度であり、引き続き、中期計画の事業方針「ITの活用を一層促進すること等により、業務の効率化及びコスト削減を図り、サービスの質の維持・向上と財政の健全化に努めること」、「人員の弾力的な運用等を行い、強化すべき事業や新規事業の創生に取り組むこと」及び「研修の機会を増やすこと等により、計画的に職員の資質や能力の向上を図ること」に留意しつつ、全体的な見直しを図り、事業を積極的に推進します。

各事業の概要は、以下のとおりです。

I 添付文書情報提供事業（公益目的支出計画実施対象事業：継続事業1）

1. 医療用及び一般用医薬品添付文書の収集、提供

独立行政法人医薬品医療機器総合機構（以下「PMDA」という。）から新規及び更新分の医療用及び一般用医薬品添付文書を毎日ダウンロードし、PMDAにないものは医薬品等企業から直接入手し、これをテキストデータ（XML等）に加工、保存し、出版物やデータベース等の提供に資する。

なお、平成31年度からその電子化様式がSGMLからXMLに変更となるが、添付文書データ利用者への対応は、従来の利用者への影響を少なくする目的もあり、当初は現行のデータ形式の範囲内で対応する。当年度中にXML編集システムを完成させ、新記載要領に対応させたJAPIC XMLデータの提供を開始する。

2. 医療用医薬品集等出版物の発行

上記1. で収集した情報を基に医療用医薬品集、一般用医薬品集、日本の医薬品構造式集等の出版物、CD-ROMを発行する。また、JAPIC医療用・一般用医薬品集CD-ROM及び日本の医薬品構造式集を薬学系大学へ引き続き無償提供を行う。

3. 医薬品添付文書関連情報のデータベースの提供

上記1. のテキストデータを基に医療機関等のニーズに応じて、添付文書全文、禁忌・相互作用・用法用量の個別項目、或いは医薬品の効能効果とこれに対応する標準病名等について独自のシステムによりデータベース化し、データ提供する。

- (1) 医薬品と対応病名データ等については、ユーザニーズに対応し、さらなるデータの充実を図る。また、データと検索システムをセットにした医療機関内で検索可能な「医薬品と対応病名検索システム（病名ナビ）」を提供する。
- (2) 一般用医薬品については、厚生労働省から提供される医薬品銘柄コード（経済課コード）データをWHO等へ提供する。
- (3) お薬手帳（電子版）の普及が見込まれることから、お薬手帳（電子版）サービスの開発・提供事業者等にJAPIC医薬品添付文書情報関連データを利用いただくよう積極的に働きかけ、ユーザの拡大を図る。

4. 効能効果の対応標準病名及び医薬品類似名称検索システムのWEBによる提供

JAPICのホームページから無償で検索できる「効能効果の対応標準病名」及び「医薬品類似名称検索システム」をWEBにより提供する。

5. 後発医薬品の信頼性向上のための医療用医薬品最新品質情報集（ブルーブック）作成への協力

厚生労働省が有効成分ごとに品質情報を体系的にまとめた医療用医薬品最新品質情報集（ブルーブック）を作成・公表する事業に積極的に協力し、後発医薬品の品質情報に関する調査、データ入力を行うとともに、リンク先として効能効果等の差を確認できるデータベース「ブルーブック連携データベース」を公開する等の協力を行う。

II 薬事関連情報提供事業（公益目的支出計画実施対象事業：継続事業2）

1. 海外規制措置情報（JAPIC Daily Mail）等の提供及び海外文献情報の提供

- (1) 海外規制措置情報（JAPIC Daily Mail 及びJAPIC Daily Mail Extra）の提供サービスについては、環境の変化や医薬品等企業のニーズに対応できるよう業務体制を一層充実させる。また、定期的に提供内容の見直しや調査対象サイトの見直しを行う。
- (2) 生物由来製品等の感染症情報（JAPIC Daily Mail Plus）の提供サービスについては、国内外の有用なサイトを調査し、生物由来製品等に関する感染症情報を提供する。また、定期的に提供内容の見直しや調査対象サイトの見直しを行う。
- (3) JAPIC Pharma Report-海外医薬情報については、海外の主要医学雑誌と副作用資料からの安全性・有効性情報を月1回JAPICホームページから無料で提供する。
- (4) 海外の文献学会情報サービスについては、外部データベースを利用した文献検索サービスのユーザ数が増加しており、体制を強化し品質の維持と業務効率化を図る。

2. 大規模安全性情報 (JAPIC AERSサービス) の提供

大規模安全性情報提供事業として、米国食品医薬品局 (FDA) が提供する医薬品有害事象自発報告システム (FAERS) を基にしたデータベース (JAPIC FAERS) のデータ提供及び調査・解析サービスを提供する。PMDAが公開している「副作用が疑われる症例報告に関する情報」(JADER) のデータを用いた調査・解析サービスを提供する。

3. 医薬品情報データベース (iyakuSearch) の提供

医薬文献情報・学会演題情報、添付文書情報、臨床試験情報 (JapicCTI) 等、JAPICが保有する医薬品に関する情報を一般に公開する。

JapicCTI については、適切且つ円滑な臨床試験情報の公開を支援する。

4. その他の薬事関連情報の提供

日本製薬工業協会の各委員会等編集の書籍を販売する出版事業及び各委員会主催の講演会等を開催するセミナー事業を受託事業として円滑に実施する。

Ⅲ 医薬文献情報提供事業 (その他の主要な事業)

1. 医薬文献・学会情報の提供 (JAPIC-Q、JAPIC-QX、JAPIC-Q医療機器等)

国内で開催される医学・薬学関連の学会予稿集・プログラム・学会報告及び学術雑誌を基に、医薬品の適正使用に必要な有効性、安全性及び品質に関する情報及び医療機器・再生医療等製品の安全管理情報を迅速に提供する。

- (1) JAPIC-Qについては、医薬品に関する情報提供のため、定期的にキーワード、採択基準及び採択雑誌を見直し、国内外のGVPに対応して提供する。JAPIC-QXサービスでは個別ユーザの要望に応じた加工をして提供する。
- (2) JAPIC-Q医療機器情報サービス (再生医療等製品を含む) については、医療機器、再生医療等製品、検査薬、化粧品などに関する安全管理情報について定期的にキーワード及び採択基準を見直し、提供する。
- (3) JAPIC-Q Plus サービス (生物由来製品等の感染症情報) については、通知等を基に採択対象とする感染症情報を随時更新し、月1回提供する。
- (4) JAPIC-Q海外情報サービスについては、海外主要医学雑誌等から医薬品に関する情報について定期的にキーワード及び採択基準を見直し、提供する。
- (5) 医薬品等企業が実施する医薬品等安全確保業務の受託機関としての体制の強化については、品質の高い安全性情報等の収集・加工・提供に加え、業務手順書の整備・改訂、品質管理基準の明確化、自己点検の実施、従事者の教育訓練の実施、システム検証の実施等を定期的に行い、受託機関として品質保証の確立に努めるために万全な体制を継続する。

2. 医薬文献・学会情報データベース等の提供

医薬文献情報・学会演題情報等の医薬品の基礎から臨床までの有効性・安全性・品質に関する情報等を蓄積したデータを外部の情報提供機関を通じて提供する。

3. JAPIC医薬品情報総合検索サービス(PharmaCross)の提供

医薬文献情報、学会演題情報、添付文書情報をはじめとするJAPIC医薬品情報データベース (iyakuSearch) 公開コンテンツのデータを中心に、医薬品集等書籍・CD-ROMのデータ等を集約し、これらを横断的に検索できるほか、さらに構造式やJAPIC AERSデータ等を含むJAPIC保有の各種医薬品情報を成分単位で一覧表示する機能、また、検索結果データのダウンロード機能を有する等の会員向けサービスを提供する。

4. 医歯薬系の学会報告検索サービス (Where) の拡充

平成30年4月から運用を開始した (Where) について、ITを活用し、索引範囲の拡大・充実等、サービスの向上を図るとともに、アカデミックな分野のユーザに対し普及活動を行う。

Ⅳ 運営基盤及び組織・人人体制の強化等

1. 運営基盤の強化

- (1) 医療機器企業会員等の拡充
- (2) セキュリティ対策の強化
- (3) 業務の効率化とサービスの質の向上

2. 組織・人人体制の強化

- (1) 機動的な組織と弾力的な人員配置
- (2) 計画的な人材の育成と確保

3. 公益目的支出計画に基づいた執行

JAPICは、医薬品・医療機器等の情報収集・提供の専門機関として、今後も皆様からのご要望に応じた事業展開・運営を遂行してまいります。

会員の皆様におかれましては、平成31年度事業計画についてご理解ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

医薬品・医療機器等の適正使用に役立つ品質・有効性・安全性に関する情報提供サービス

医薬品・医療機器等情報



医薬品・医療機器等（再生医療等製品含）の文献・学会情報、
国内外規制措置情報等の提供・支援（安全確保業務のサポート）

生物由来製品等の感染症情報



医療機器等 *

医療機器、再生医療等製品、医薬部外品、体外診断薬 等

個別ニーズに応じた 安全確保業務の総合サポート

社内GVP管理票、報告書案、GVP管理・整理資料の作成・提供等、
各社様のご相談をお受けしています。

各サービスの詳細については JAPIC NEWS 2019年6月号 から順次掲載いたします。

外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より－(抜粋)

2019年3月1日～3月31日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No. 692-695) の記事から抜粋

■米FDA

- Drug Safety Communication : 安全性試験により、高用量のtofacitinib (Xeljanz, Xeljanz XR) による関節リウマチ患者の肺の血栓および死亡のリスクが判明; 米FDAの調査
<<https://www.fda.gov/downloads/Drugs/DrugSafety/UCM631989.pdf>>
- 米FDA, 乳癌の検出, 診断または検査に対してマンモグラフィの代わりにサーモグラフィを使用すべきではないと警告: FDA Safety Communication
<<https://www.fda.gov/MedicalDevices/Safety/AlertsandNotices/ucm631885.htm>>
- 乳房切除および他の癌関連外科手術を含む婦人科診療におけるロボット支援外科用デバイスを使用する場合について警告: FDA Safety Communication
<<https://www.fda.gov/MedicalDevices/Safety/AlertsandNotices/ucm632142.htm>>
- 米FDA, 手術用ステープラーおよび植込み型ステープルと関連するリスクの低減を促進する措置を講じる
<<https://www.fda.gov/NewsEvents/Newsroom/PressAnnouncements/ucm633054.htm>>
- 更新情報: paclitaxelコーティングバルーンおよびpaclitaxel溶出ステントによる末梢動脈疾患治療は死亡率の増加と関連している可能性がある－医療従事者向けレター
<<https://www.fda.gov/MedicalDevices/Safety/LetterstoHealthCareProviders/ucm633614.htm>>
- 米FDAの長官 (Scott Gottlieb) およびCenter for Devices and Radiological Health長 (Jeff Shuren) の声明: 潜在的な安全性の問題に対処するため, 医療機器の原材料を評価する取り組みについて
<<https://www.fda.gov/NewsEvents/Newsroom/PressAnnouncements/ucm633602.htm>>
- Drug Statement : 米FDA, 多発性骨髄腫におけるVenclextaの試験的な使用に関連するリスクについて警告
<<https://www.fda.gov/Drugs/DrugSafety/ucm634120.htm>>
- Medtronicの植込み型心臓デバイス, プログラマーおよびホームモニターに影響を及ぼすサイバーセキュリティの脆弱性: FDA Safety Communication
<<https://www.fda.gov/MedicalDevices/Safety/AlertsandNotices/ucm633960.htm>>

■カナダHealth Canada

- Health Canada, opioidsの販売に関する追加の制限案について発表
<<https://www.canada.ca/en/health-canada/news/2019/03/health-canada-announces-proposed-additional-restrictions-on-marketing-of-opioids.html>>
- Health Canada, 医薬品および医療機器に関する臨床情報への一般のアクセスを提供するための規則を最終決定
<<https://www.canada.ca/en/health-canada/news/2019/03/health-canada-finalizes-regulations-to-provide-public-access-to-clinical-information-on-drugs-and-medical-devices.html>>
- TECENTRIQ (atezolizumab) -免疫関連筋炎のリスク
<<https://healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2019/69274a-eng.php>>

■EU・EMA

- Article 31 referrals : fluorouracilおよびfluorouracil関連物質 (capecitabine, tegafur, flucytosine) 含有医薬品に関する手続きの開始
<https://www.ema.europa.eu/en/documents/referral/fluorouracil-fluorouracil-related-substances-article-31-referral-ema-starts-review-screening_en.pdf>
- Referral : quinoloneおよびfluoroquinolone含有医薬品 (nalidixic acid, piperidic acid, cinoxacin, enoxacin, pefloxacin, lomefloxacin, ciprofloxacin, levofloxacin, ofloxacin, moxifloxacin, norfloxacin, prulifloxacin, rufloxacin, flumequine) , Article 31 referrals, 欧州委員会の最終決定 (更新情報)
<https://www.ema.europa.eu/documents/referral/quinolone-fluoroquinolone-article-31-referral-disabling-potentially-permanent-side-effects-lead_en.pdf>

■英MHRA

- paclitaxel薬剤コーティングバルーンカテーテルおよび薬剤溶出ステントをレビューするため, 専門家諮問グループが設置される
<<https://www.gov.uk/government/news/expert-advisory-group-set-up-to-review-paclitaxel-drug-coated-balloon-catheters-and-drug-eluting-stents>>
- Onivyde (irinotecan, リポソーム製剤) : 重篤で致死的な血栓塞栓性事象の報告
<<https://www.gov.uk/drug-safety-update/onivyde-irinotecan-liposomal-formulations-reports-of-serious-and-fatal-thromboembolic-events>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報 (海外) 担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介: <<https://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供をご希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。
 この情報は附属図書館の蔵書検索 (<https://www.japic.or.jp/iyaku/index.html>) の図書新着案内でもご覧いただけます。
 これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。
 閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越しください。

〈配列は洋書、和書別に書名のアルファベット順、五十音順〉

書名	著编者	出版者	出版年月
CPS 2019: Compendium of Pharmaceuticals and Specialties Canada's Trusted Drug Reference	Canadian Pharmacists Association	Canadian Pharmacists Association	2019年
Indian Pharmacopoeia 2018	Government of India, Ministry of Health & Family Welfare	Indian Pharmacopoeia Commission	2018年
JAPIC医療用医薬品集 普及新版 2019	一般財団法人日本医薬情報センター 編	一般財団法人日本医薬情報センター	2019年3月
医薬品承認申請ガイドブック<2018-19>	公益財団法人日本薬剤師研修センター	株式会社薬事日報社	2018年12月
改訂新版 重篤副作用疾患別対応マニュアル 第1集	一般財団法人日本医薬情報センター 編	一般財団法人日本医薬情報センター	2019年3月
日本の医薬品 構造式集 2019	一般財団法人日本医薬情報センター 編	一般財団法人日本医薬情報センター	2019年3月

情報提供一覧

2019年4月1日～4月30日提供

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合はJAPIC 事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせください。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free https://database.japic.or.jp/	
1. [一般用医薬品 (経済課コード)] 2019年3月分 (HP定期更新情報掲載)	4月 1日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. JAPIC [医療用・一般用医薬品集インストール版2019年4月版]	4月26日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. 2019年版 [医薬品製造販売承認品目一覧]	4月26日	3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
4. [JAPIC NEWS] No.421 2019年5月号	4月26日	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (FAX、郵送、電子メール等で提供)		5. 臨床試験情報	随 時
1. [JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報] No.1177-1180	毎 週	6. 日本の新薬	随 時
2. [医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)]	毎 週	7. 学会開催情報	月 2 回
3. [JAPIC-Q Plusサービス]	月 1 回	8. 医薬品類似名称検索	随 時
4. [JAPIC-Q 医療機器情報サービス]	月 2 回	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
5. [外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)] No.4347-4366	毎 日	〈iyakuSearchPlus〉 https://database.japic.or.jp/	
6. [JAPIC Weekly News] No.696-699	毎 週	1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
7. [感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)] No.791-795	毎 週	2. 学会演題情報プラス	月 1 回
		3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日

外部機関から提供しているJAPICデータベース

〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉 <https://jdream3.com/>

〈株式会社日本経済新聞社から提供〉 <https://telecom.nikkei.co.jp/>

医療用医薬品集

普及新版2019

2019年
3月発行



本書は「JAPIC医療用医薬品集(B5判 約4,200頁)」をもとに臨床の場で利用される際に必要な項目を選択し、取り扱いやすく、持ち運びに便利なちょっと大きめのポケットサイズ(A5判)に再構成したものです。成分ごとに添付文書記載の効能・効果、用法・用量、禁忌、警告、使用上の注意等、及び半減期情報等を記載。約2,200成分、約21,000製品の医療用医薬品情報を2019年1月時点の最新情報で収録。

■掲載内容

- ◎一般名、製品名
- ◎承認日(一部製品)
- ◎組成(規格)
- ◎効能・効果、用法・用量
- ◎警告
- ◎禁忌、原則禁忌
- ◎慎重投与
- ◎重要な基本的注意
- ◎相互作用(併用禁忌・併用注意)
- ◎副作用
- ◎高齢者への投与
- ◎妊婦・産婦・授乳婦等への投与
- ◎小児への投与
- ◎臨床検査結果に及ぼす影響
- ◎半減期

価格：**4,800**円(+税)
A5判／約2,000頁

一般財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC** 編集・発行 TEL 0120-181-276
丸善出版株式会社 発売 TEL 03-3512-3256

上記書籍の他、電子カルテやオーダリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。



このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

むらさきせんだいはぎ

「紫千代萩」と書く。学名:Baptisia australis (L.) R.Br. 英名:Blue false indigo. まめ科むらさきせんだいはぎ属。多年生草本。北アメリカ原産、日本には明治の頃移入。5~7月頃、青紫色をした蝶形の花を多数付ける。花後、種子の入った鞘を付ける。アメリカ原住民は茎を藍色染色に利用。全草有毒。アルカロイドCytisine(アセチルコリン作動性物質)等含有。(hy)



JAPICホームページより
<https://www.japic.or.jp/>

HOME ▶ サービスの紹介 ▶ ガーデン
Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。